

## 感染症情報 8月15日～21日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	612例(堺市 27例)
②おたふくかぜ	382例(堺市 22例)
③溶連菌感染症	184例(堺市 15例)
④ヘルパンギーナ	156例(堺市 16例)
⑤RSウイルス感染症	132例(堺市 2例)

が報告された。

感染症報告数は前週より1.8%増の1,788件であった。報告数の第1位は感染性胃腸炎で、第2位におたふくかぜ、第3位に溶連菌感染症、第4位にヘルパンギーナ、第5位がRSウイルス感染症であった。おたふくかぜが依然として減っておらず(前週府下全体で356例、堺市で19例)、このまま幼稚園や学校が始まると拡大が懸念される。ヘルパンギーナは府下では前週比36%減でさらに減っている(堺市では8例→16例)。第5位のRSウイルス感染症が府下全体で前週71例から132例の86%増となっており、今後の動向に注意が必要である(堺市では6例→2例)。RSウイルス感染症は生後4～6か月位までの赤ちゃんで無呼吸発作を含めて重症化が心配であり、幼少児では細気管支炎～肺炎を比較的起こしやすい。治療は基本的には対症療法となり、一般的な予防としては風邪予防と同じで、手洗いやうがいということになる。

また、ランク外でマイコプラズマ肺炎の報告が増加している。

はしかの報告が1件(輸入例疑い)あり。風疹の報告はなかった。